

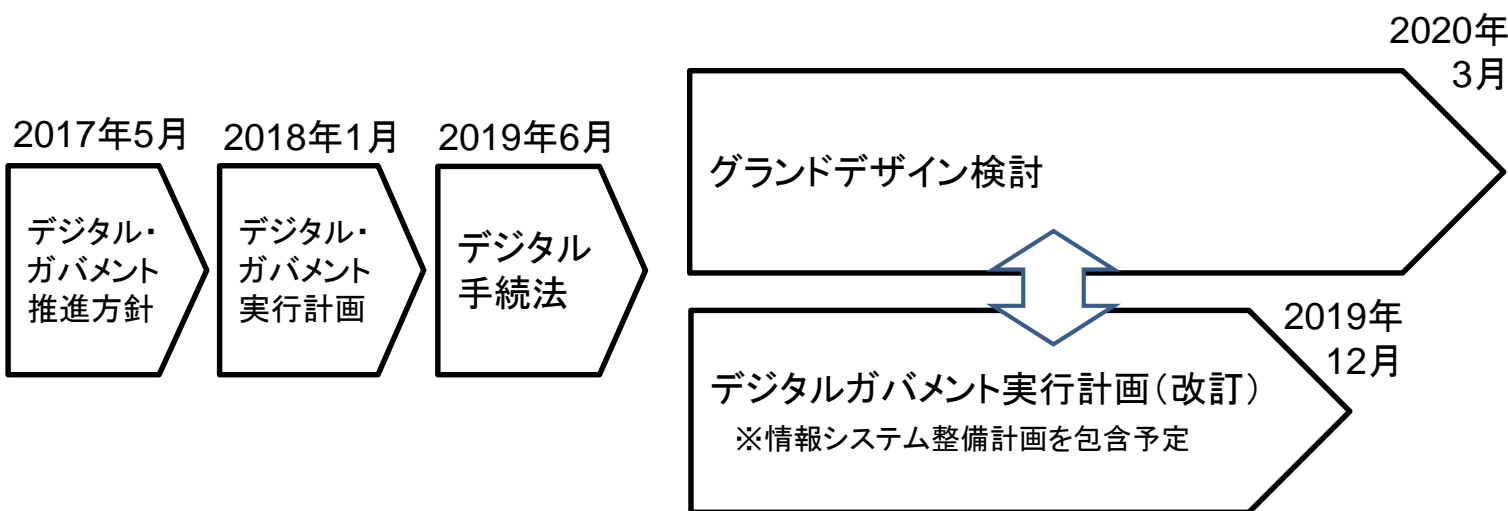
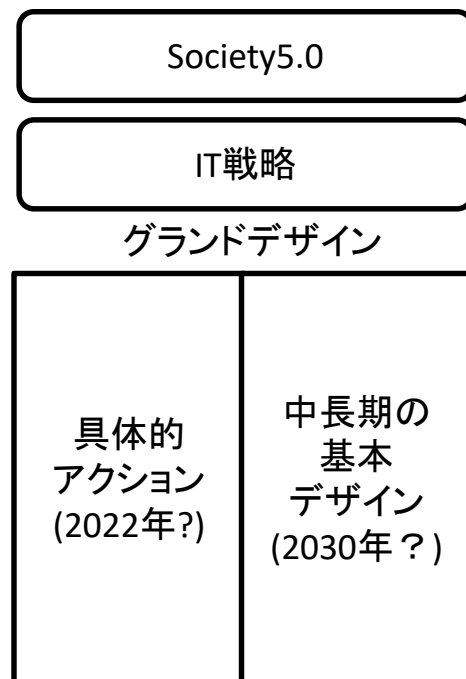
グランドデザイン検討の進め方について



令和元年7月5日
内閣官房IT総合戦略室

グランドデザインWTの全体の流れ

- グランドデザインは、これまでのデジタル・ガバメント推進方針の延長線上で検討
- 中長期の基本デザインと短期の具体的アクションの骨子での構成を予定
- デジタル手続法により可能になった改革を前提として、年末に決定されるデジタルガバメント実行計画(改訂)と方向性を共有しながら推進



(グランドデザイン検討に係る想定スケジュール)

6/17 プレ会議(目標と推進方法の共有)	7月5日	7月末	8月末	9月	12月	3月
6/26 方針と予定の確認、大まかな役割分担	分科会			分科会	分科会	分科会
7/3 分担分野の案の議論。抜け確認	方針	骨子	骨子	集中討議	概要公表	報告
7/10 全体素案の確認と分科会意見反映	予定	目次	概要		ドラフト案	
7/24 骨子目次完成						
7/31 予備+CIO補佐官に展開						

これまでの議論で出された意見等（概要）

- 6月中旬より議論を開始。グランドデザイン検討の前提条件や、構成要素として押さえるべきポイントなどを中心に議論。

グランドデザイン

具体的アクション (2022年?)	中長期の行政サービス像と、 それを支える政府情報システムの在り方の 基本デザイン(2030年?)
----------------------	--

<<ここまでの議論のポイント>>

◆ 前提とすべき社会・経済・技術状況をどう考えるか？

- 国と地方の関係・役割分担、公的な役割をどう考えるか
- UIはスマホ前提？ キャッシュレス？

◆ 2030年行政サービスの基本思想は何か？

(例) 分かりやすいUX、ワンストップからシームレス・ゼロストップ、申請主義からプッシュ型へ、窓口がない前提でのサービス、変化の吸い上げと迅速な対応、サンドボックス活用、アクセシビリティ、グローバル対応、インクルージョン、官民協働、データドリブン

◆ 政府情報システムの在り方の基本思想は何か？

(例) アーキテクチャー明確化、基盤は共通化・業務はマイクロサービス化、クラウド活用、特定PFに依存しない、マスターデータの見直し、データ品質、セキュリティと効率性のバランス、本人確認・eKYC、政府全体のネットワーク・トポロジー見直し、インフラ管理の自動化、開発者向け環境、アジャイル・DevOps、政府の実施体制、予算・調達手法

(参考) グランドデザインWTの専門性について

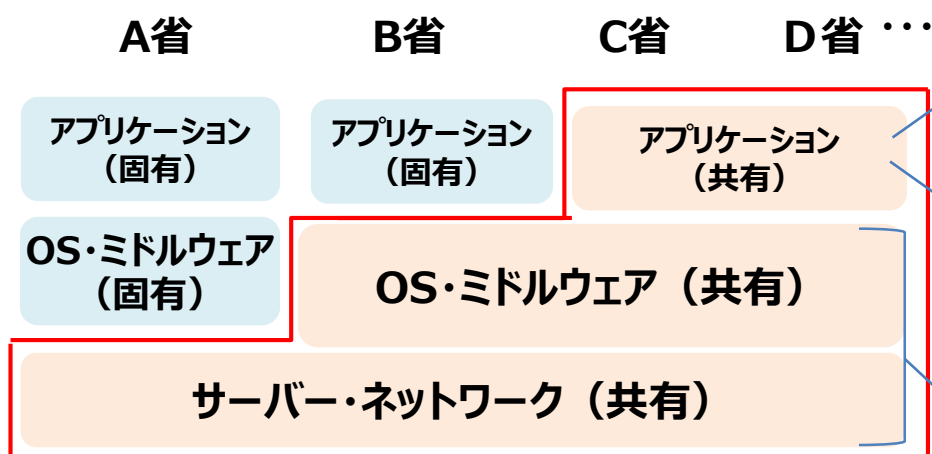
- グランドデザインWTは、政府CIO補佐官16名にて構成。ITに係る高度な専門知識、経験・実績（ITSSもしくはUISSのレベル6相当以上）に加えて、以下の専門性や技術領域をカバーしうる人材に着任を依頼。また、国際動向の把握や発信力も重視



(参考) デジタルインフラについての基本的な考え方

- デジタルインフラとは、「**政府全体で共通的に利用するシステム、基盤、機能等**」
- 現行の府省共通システムを中心にデジタルインフラと位置づけ、一括して整備。府省独自システムは、原則としてこれを利用していく

<デジタルインフラの範囲のイメージ (赤枠部分) >



- 府省共通に行う業務や、複数の府省で共同・連携して行う業務に係る政府情報システム
(例) 人事給与、旅費等の内部管理業務 など
- 府省横断的に利用・参照される社会の基本データに係る政府情報システムや機能
(例) 法人に係る基本情報 など
- ITサービスの稼働環境に係る機能で共通化に馴染むもの (共通化に馴染むか否かは技術進歩に応じて見直し)
(例) サーバー、ネットワーク、OS・ミドルウェア、セキュリティ・認証 など

※ デジタルインフラ整備のイメージ

- 情報システム (クラウドサービスを含む) を一括して整備し、複数省庁で利用
- 共通仕様やデータ構造・分類体系の標準を策定し、当該仕様等を用いて整備・運用